

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当: 斎藤登美夫



◆◆◆ No.0418 ◆◆◆

17/02/01

【 2 月相場、方向性ハッキリしないが「大きく動く」可能性も 】

昨日終了した 1 月相場は、過去のパターンからも決して少なくない「月初高・月末安」となり、月足は実体部のしっかりした陰線で大引けた。当レターでレポートしたように、1990 年以降の 27 年間で 16 勝 11 敗とそれほど大きく偏っているわけではないが、それでも「1 月の月足陰陽と年足の陰陽が同じになる確率が高い」ーことからすると、少し気は早いですが今年のドル/円・年足は陰線引けだろうか!?
ともかく、そんな 1 月相場を受けた本日からの 2 月相場について、恒例の経験則を参考に以下で考えてみたい。

◎2 月、過去には「為替に絡む重要ニュース」多い

2 月相場の動静を報じる前に、1 月 11 日付の当レターで指摘した 1 月相場の特徴を最初にまとめておく。

(1); 「1 月に年間の天底」をつける可能性がある
(2); 「1 月相場の方向性と年間相場の方向性」は一致することが多い
ちなみに、前者は 1990 年以降昨年までの 27 年間で 10 回、後者は同じ 27 年間で 16 勝 11 敗という結果が残っている。(2)については、前段で報じたとおりだが、(1)との兼ね合いで指摘すれば年明けから早い段階で記録したドル高値 118.60 円がヒョッとすると、今年のドルの最高値であった可能性を否定出来ないのかも知れない。

さて、ここからは肝心の 2 月相場の特徴についてリポートするが、まずは勝敗・星取表をみておく。1990 年以降昨年まで過去 27 年は 13 勝 14 敗となっており、ほぼ互角の内容。つまり 2 月相場は、ドル高 or ドル安のどちらが有利という明確な方向性が見出しにくいことになる。

ただ、月足のチャートを見ると、先に記したように、今年 1 月の月足は実体部が 5 円近いという、かなりしっかりと陰線だった。テクニカルには、上値をなかなか積極的に買いにくい雰囲気も感じられ、頭の重い展開を予想する向きも少なくないようだ。

ところで、方向性という意味では特徴のなかった 2 月相場だが、別の特徴を調べてみると、「動くときには大きく動くが動かない年はまったく動かない」ーという両極端になり易い傾向が強うかがえることがわかった。

たとえば、2009 年の 2 月は月間変動 9.76 円で年間を通してもっとも動いた 1 カ月となっていたほか、2012 年の 2 月も年間でもっとも変動した月。また、昨 2016 年も順位的には年間 3 位に留まったものの、月間の変動幅は 10.45 円とかなり大きなモノを記録している。

それに対し、2014 年は逆に「動かない年」であり、月間を通した変動はわずかに 2.1 円で年間 10 位の小変動に終わっているなど、どちらの道をたどるのかは「神のみぞ知る」ところ。しかし、今年 1 月は月間の価格変動が 6 円以上となるなど、なかなかの荒れ相場をたどっていただけに、個人的には「大きく動く 2 月相場」、2 カ月連続の大変動を是非とも期待したい。

一方、過去の 2 月の情勢を調べてみると、為替に関係する重要な出来事が少なくないようだ。代表的なものをいくつかピックアップすると、「新円へ切り替え(46 年)」や「為替が変動相場制へ移行(73 年)」「レーガノミクス発表(81 年)」「ルーブル合意(87 年)」ーなどとなる。また、いわゆる「2・26 事件(36 年)」をはじめとして、日本や世界の政治情勢におけるビッグニュースも多いうえ、「ベアリング証券の倒産(95 年)」など 3 月決算期末を前に著名企業の倒産や不祥事発覚も相次ぎ観測されている。

もちろん、こうした事象は毎年観測されるというモノではない。ただ、ご承知のとおり、トランプ新米大統領が日本を名指して「円安批判」を行うなど、濡れ衣と言っても良いことながら、中国とともに「為替操作国」に認定される危険性もまったくゼロではなさそうだ。前述した「過去の経験則」の観点と絡め、注意しておいて損はない出来事であるように思っている。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

